

国内感染症報告の状況

(平成22年12月1日から平成23年3月31日までの報告受付分)

感染症報告についての注意事項

- 1) 感染症報告については、医薬品との因果関係が不明なものを含め製造販売業者等から報告されたものであり、個別に医薬品との関連性を評価したものではない。
- 2) 感染症報告については、平成22年12月1日から平成23年3月31日に報告されたものである。
- 3) 感染症名は、用語の統一のため、ICH国際医薬用語集日本語版(MedDRA/J)に記載されている用語(Preferred Term:基本語)で表示している。
- 4) 報告症例ごとに、被疑薬及び感染症名を記載している。

※販売名(一般名)の記載について

・「販売名」は原則として、輸血用血液製剤については、「医薬品データファイル(コード表)」の基本薬剤名により記載し、その他の製剤については、報告対象となった製剤の承認販売名を記載している。また、含量毎に異なる販売名とされる一連の製品で、含量が特定できない場合等には、販売名における含量記載等を省略する場合がある。

なお、過去における成分同一性を有する異なる承認製品の事案である場合等には、備考欄にその旨を記載している。

・「一般名」については、「医薬品データファイル(コード表)」の一般的名称とされる7桁コードの名称を使用している。

国内感染症報告の状況(平成22年12月1日～平成22年3月31日)

No.	報告受領日	販売名(一般名)	患者性別	年代	原疾患(簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	献血者個別NAT	献血者個別NAT	備考
1	2010/12/6	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	女	70	血液腫瘍	敗血症	10/11	14:30 BT 37.2℃	15:25 赤血球製剤投与開始。 15:40 副作用なし。 16:55 悪寒、嘔吐。輸血中止。 17:15 BT 38.8℃。血液培養施行。 BT 39.5℃ 23:50 BT 38.0℃ 輸血翌日 BT 38℃前後。発熱続く。 輸血翌々日 BT 37℃台。 院内にて実施の患者血液培養にてEscherichia coliを同定。	投与中止の当該製剤(1本)で細菌培養試験を実施、陰性。 非溶血性副作用関連検査実施 抗血漿タンパク質抗体検査: 陰性 血漿タンパク質欠損検査:欠損なし	-	-	担当医より「感染症と輸血血液との因果関係はないと考える」とのコメントが得られた。	
2	2010/12/9	新鮮凍結血漿-LR(新鮮凍結人血漿) 照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	女	80	消化器腫瘍 肝・胆・膵腫瘍	C型肝炎	10/07 10/07	HCV-Ab(-) (09/09) HCV-Ab(-) (10/06)	HCV-Ab(+) (10/10) HCV-RNA(+) (10/11)	HCV-RNA(-) (10/07)	HCV-RNA(+) (10/11) HCV-Ab(+) (10/11)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体12本すべてHCV-RNA(-)	
3	2010/12/13	赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液) 照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	男	70	循環器疾患	C型肝炎	10/09 10/09	HCV-RNA(-) (10/09) HCV-Ab(-) (10/09)	HCV-RNA(+) (10/11) PCRでHCV-RNA陰転化。 (10/11)	HCV-RNA(-) (10/09)	HCV-RNA(+) (10/11)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体2本すべてHCV-RNA(-)	
4	2010/12/13	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	男	60	腎・泌尿器疾患 循環器疾患 その他の疾患	C型肝炎	09/05	HCVコアAg(-) (09/04) HCVコアAg(-) (09/05)	HCVコアAg(+) (10/11) HCVコアAg(+) HCV-Ab(+) (10/11)	-	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (10/11)	陽性(輸血後)	保管検体2本すべてHCV-RNA(-)	
5	2010/12/14	新鮮凍結血漿(新鮮凍結人血漿)	男	70	肝・胆・膵疾患	C型肝炎	07/08	HCV-Ab(-) (07/07)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) HCVグルーピング 2 (10/11)	-	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (10/11)	陽性(輸血後)	保管検体1本についてHCV-RNA(+)	当該保管検体と患者検体中のウイルスの塩基配列を検査したところ、検査した範囲(Core領域196bp)で全て一致した。また、超可変領域(hypervariable region:HVR)を含むCore-E1-E2の領域1279bpで両者は1箇所において相違が見られたが、その他は全て一致した。 献血者と患者のHCウイルスは共にGenotypeIII(2a)であった。 厚生労働省受付番号:i10102516-001 なお、同一採血由来の製剤の感染報告に基づく遡及調査により判明した症例。

No.	報告受領日	販売名(一般名)	患者性別	年代	原疾患(簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	備考
6	2010/12/14	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	女	80	外傷・整形外科的疾患	B型肝炎	10/07	HBsAg(-) (10/07)	HBsAg(-) (10/08) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(±) HBeAg(+) HBeAb(-) (10/11)	HBV-DNA(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (10/07)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (10/11)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体1本(全部)HBV-DNA(-)	
7	2010/12/15	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射)) 赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液) 新鮮凍結血漿-LR(新鮮凍結人血漿) 照射濃厚血小板-LR(人血小板濃厚液(放射線照射))	女	40	循環器疾患	C型肝炎	10/08 10/08 10/08 10/08	HCV-Ab(-) (10/08) HCVコアAg(-) (10/08) HCV-Ab(-) (10/08)	HCVコアAg(+) HCV-Ab(+) (10/11)	HCV-RNA(-) HCV-Ab(-) (10/08)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (10/11)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体17本すべてHCV-RNA(-)	
8	2010/12/15	照射濃厚血小板HLA-LR(人血小板濃厚液HLA(放射線照射))	女	60	血液腫瘍	敗血症	10/11	BT 37.4°C、 BP 97/57、P 84	血小板製剤投与開始後30分後に悪寒、発熱、BT 39.8°C、BP 135/72、P 120 患者血液培養でグラム陰性桿菌を検出。 Providencia alcalifaciensを同定。	同一採血番号の血漿(1本)で無菌試験を実施、陰性。非溶血性副作用関連検査実施。 抗血漿タンパク質抗体検査: 陰性 血漿タンパク質欠損検査: 欠損なし 抗HLA抗体検査: 輸血前、陰性、輸血後、陽性	-	-	担当医より「感染症と輸血との因果関係は不明である」とのコメントが得られた。	
9	2010/12/21	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	男	50	消化器腫瘍	敗血症	10/12	7:22 BT36.1°C、HR 83、BP 133/73	10:30 赤血球製剤1単位投与開始。 11:45 投与終了。 11:45 赤血球製剤1単位投与開始。 14:00 投与終了。BT 36.6°C、HR 83、BP 140/73 輸血翌日 6:00 BT 37.5°C、HR 90、BP 100/69 7:00 BT 39.8°C。患者血液培養実施。 11:00 BT 38.0°C 14:45 BT 38.3°C、HR 112、BP 161/77 16:00 BT 38.6°C 19:40 HR 112、BP 146/72 末梢冷感、発汗著明、敗血症性ショック疑い、患者血液培養よりグラム陰性桿菌(3+)を検出し、Acinetobacter baumannii同定。 20:00 BT 38.9°C、HR 100、BP 116/60	同一採血番号の血漿(1本)で無菌試験を実施、適合 当該輸血用血液と同時製造品の血漿のセグメントチューブでのエンドトキシン検査結果 (1)1本エンドトキシン濃度 0.9pg/mL(基準値1.0pg/mL) (2)1本エンドトキシン濃度 1.7pg/mL(基準値1.0pg/mL)であったが再検査の結果基準値以下であった。	-	-	担当医より「感染症と輸血との因果関係は不明である」とのコメントが得られた。	

No.	報告受領日	販売名(一般名)	患者性別	年代	原疾患(簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	備考
10	2010/12/24	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射)) 照射濃厚血小板(人血小板濃厚液(放射線照射))	男	70	血液腫瘍	B型肝炎	08/07-10 08/07-10	HBsAg(-) (08/03) HBcAb(-) (08/04)	HBsAg(+) (10/12)	-	HBV-DNA(+) (10/12)	陽性(輸血後)	保管検体13本について全てHBV-DNA(-)	
11	2010/12/24	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	男	70	腎・泌尿器系疾患	B型肝炎	10/07-10	HBsAg(-) (09/02) HBsAg(-) (09/10) HBsAg(-) (09/11)	HBsAg(-) (10/09) HBsAb(-) (10/09) HBsAg(+) (10/12)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (10/07)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) (10/12)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体11本について全てHBV-DNA(-)	
12	2011/1/6	照射濃厚血小板-LR(人血小板濃厚液(放射線照射)) 赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液)	男	30	血液腫瘍	E型肝炎	10/09-10	-	HEV-RNA(+) (10/12)	HEV-RNA(-) IgM-HEV-Ab(-) IgG-HEV-Ab(-) (09/08)	HEV-RNA(+) IgM-HEV-Ab(-) IgG-HEV-Ab(-) (10/09) HEV-RNA(+) IgM-HEV-Ab(-) IgG-HEV-Ab(-) (10/12)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体25本についてすべてHEV-RNA(-)	担当医より「感染症と輸血血液との因果関係はないと考える」とのコメントが得られた。
13	2011/1/19	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	女	70	腎・泌尿器系疾患	C型肝炎	10/08	HCV-Ab(+) (09/09) HCVコアAg(-) (10/08)	HCVコアAg(+) (10/12) HCV-RNA(+) (10/12)	-	HCV-RNA(+) (10/1)	陽性(輸血後)	保管検体4本すべてHCV-RNA(-)	
14	2011/2/1	照射濃厚血小板(人血小板濃厚液(放射線照射)) 照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	女	60	血液腫瘍	B型肝炎	09/03-09	HBsAg(-) (09/02)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(+) (09/07) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) (10/11)	-	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) (11/01)	陽性(輸血後)	保管検体13本についてすべてHBV-DNA(-)	

No.	報告受領日	販売名(一般名)	患者性別	年代	原疾患(簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	備考
15	2011/2/1	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	女	70	消化器疾患	C型肝炎	10/02	HCV-Ab(-) (09/05) HCV-Ab(-) (09/09)	HCVコアAg(-) (10/03) HCVコアAg(+) (10/04) HCVコアAg(+) (10/06) HCV-Ab(-) (10/06) HCVコアAg(+) (10/07) HCVコアAg(+) (10/07) HCVコアAg(+) (10/08) HCV-Ab(+) (10/09) HCV-Ab(+) (10/11)	HCV-RNA(-) (09/05)	-	陰性(輸血前)	保管検体5本すべてHCV-RNA(-)	
16	2011/2/7	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	男	80	消化器疾患	細菌感染	11/01	-	10:30 赤血球製剤1本目輸血開始。 17:00 副作用なく輸血終了。 17:30 赤血球製剤2本目輸血開始。 18:00 悪寒、シバリング出現。 19:45 38℃台の発熱。SpO2低下し、O2 2L開始。 一時輸血中止。血圧低下、掻痒感等みられず抗菌薬開始しつつ輸血再開。 21:00解熱消炎鎮痛剤を内服するが40.5℃まで体温上昇。輸血中止。 23:00 38.2℃。抗菌薬投与開始。 院内にて実施の静脈血培養よりCoagulase-negative staphylococci検出。	当該製剤及びセグメントチューブ(2本)で細菌培養試験を実施、陰性。 当該製剤2本のうち1本にて抗HLAクラスI抗体陽性。 非溶血性副作用関連検査実施。 抗血漿タンパク質抗体検査:陰性 血漿タンパク質欠損検査:欠損なし	-	-	医師より「輸血血液と感染症の因果関係はないと考える」とのコメントが得られた。	

No.	報告受領日	販売名(一般名)	患者性別	年代	原疾患(簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	備考
17	2011/2/8	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	女	70	消化器疾患	細菌感染	11/01	-	<p>輸血翌日 13:30 BT 38.4°C、BP 100/54 18:30 BT 38.5°C 翌々日 13:30 発熱持続(38°C台) 患者血液培養よりKlebsiella pneumoniae検出。 輸血3日後 5:00 BT 39.4°C 10:00 BT 40.3°C。ICUへ。</p> <p>採血にてWBC 19000まで上昇。感染focus検索を行ったが、明らかなfocusを認めず。WBC 23500、CRP 19、エンドトキシン 23、抗菌薬 1gx4日投与開始、免疫グロブリン 5g/日投与開始。</p> <p>輸血4日後 0:00 エンドトキシン吸着施行。 11:00 BT 39°C、BP 70~80/-台へ低下、SpO2 90%後半、P 150~160 患者血液培養より Staphylococcus epidermidis 検出</p>	同一採血番号の血漿(2本)で無菌試験を実施、適合	-	-	担当医より「感染症と輸血血液との因果関係はないと考える」とのコメントが得られた。	
18	2011/2/8	赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液) 新鮮凍結血漿-LR(新鮮凍結人血漿) 照射濃厚血小板-LR(人血小板濃厚液(放射線照射))	女	80	循環器疾患	B型肝炎	10/07	<p>HBV-DNA (-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (10/7)</p>	<p>HBV-DNA(+) HBcAb(+) (11/1) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) (11/1)</p>	-	HBV-DNA(+) (11/1)	陽性(輸血後)	保管検体15本についてHBV-DNA(-) 1本HBV-DNA(+)	<p>当該献血者検体(HBV陽性保管検体)と患者検体中のウイルスの塩基配列を比較したところ、当該保管検体はPCRで増幅しなかったため、塩基配列を決定することができなかった。そのため当該献血者のその後の献血時検体(2010年6月12日採血、HBV陽性保管検体)と患者検体とでPreS/S領域を含むP領域の前半部の1550bpの塩基配列を比較したところ、両者は全て一致した。献血者と患者のHBウイルスはGenotype Bで塩基配列からSubtypeはadwと推定した。</p> <p>担当医より「感染症と輸血血液との因果関係はあると考える」とのコメントが得られた。</p>
19	2011/2/16	照射濃厚血小板-LR(人血小板濃厚液(放射線照射))	男	60	血液腫瘍	敗血症	11/01	-	BT39°C 院内にて実施の患者血培にてMorganella morganiiを検出	当該製剤のセグメントチューブ(2本)で細菌培養試験を実施。試験結果:陰性	-	-	-	担当医より「感染症と輸血血液との因果関係はないと考える」とのコメントが得られた。

No.	報告受領日	販売名(一般名)	患者性別	年代	原疾患(簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	備考
20	2011/2/22	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	男	70	血液腫瘍	細菌感染	11/02	BT 36.8°C、BP 130/72、HR 62、SpO2 97%	輸血開始20分後 BT 37.0°C、BP 128/76、HR 70、SpO2 98% 1時間後 悪寒・戦慄出現。 BT 41.1°C、BP 140/80、HR 98、SpO2は83%、輸血中止 2時間半後 BT 40.1°C、BP 120/70、HR 102、SpO2は98%、O2リザーバーマスク 15L/min 10時間後 BT 36.8°C、BP 102/60、SpO2は100%、O2カヌー 1L/min 翌日発熱なし。 院内にて輸血直後に実施の患者血液培養にて Pseudomonas aeruginosaを同定した。	投与中止の当該製剤(1本)で細菌培養試験を実施、試験結果:陰性 非溶血性副作用関連検査実施 抗血漿タンパク質抗体検査:陰性 血漿タンパク質欠損検査:欠損なし 抗白血球抗体検査:陽性	-	-	医師より「細菌感染と輸血血液の因果関係は不明」とのコメントが得られた。	
21	2011/3/1	新鮮凍結血漿-LR(新鮮凍結人血漿) 照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射)) 赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液) 照射濃厚血小板-LR(人血小板濃厚液(放射線照射))	男	20	外傷・整形外科的疾患	B型肝炎	10/09-10	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (10/09)	HBV-DNA(+) (11/01)	HBV-DNA(-) HBcAb(-) (10/09)	HBV-DNA(+) (11/1) HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(+) HBcAb(+) (11/2)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体22本全部について HBV-DNA(-) 【献血者陽転化情報】 当該献血 10年2月3日 HBV関連検査陰性 保管検体 個別HBV-DNA(-) 次回献血 10年10月12日 HBV関連検査陰性 保管検体 個別HBV-DNA(+) 次々回献血 11年2月3日 スクリーニングNAT(HBV)陽性(陽転献血)	スクリーニングNAT陽転時検体(HBV陽性保管検体)と患者検体中のウイルスとでPreS/S領域を含むP領域の前半部の1550bpの塩基配列を比較したところ、両者は全て一致した。献血者と患者のHBウイルスはGenotypeCで塩基配列はSubtypeはadrと推定した。担当医より「感染症と輸血血液との因果関係はあると考える」とのコメントが得られた。
22	2011/3/7	新鮮凍結血漿-LR(新鮮凍結人血漿)	男	50	消化器腫瘍	B型肝炎	10/09	HBsAg(-) (10/09)	HBsAg(+) HBeAg(+) HBcAb(+) IgM-HBcAb(-) (11/02)	-	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(+) HBcAb(+) (11/02)	陽性(輸血後)	保管検体2本全部について HBV-DNA(-)	
23	2011/3/7	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	男	60	消化器疾患	C型肝炎	10/12	HCV-Ab(-) (10/12)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (11/2)	HCV-RNA(-) HCV-Ab(-) (10/12)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (11/02)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体3本全部について HCV-RNA(-)	

No.	報告受領日	販売名(一般名)	患者性別	年代	原疾患(簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	備考
24	2011/3/11	赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液) 照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	女	70	血液腫瘍	B型肝炎	10/06-11	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (10/06)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBcrAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) HBeAg(+) HBeAb(-) (11/02)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (10/06)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (11/02)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体9本全部について HBV-DNA(-)	
25	2011/3/17	照射濃厚血小板(人血小板濃厚液(放射線照射)) 照射濃厚血小板-LR(人血小板濃厚液(放射線照射)) 照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	男	70	血液腫瘍	C型肝炎	09/08-09 10/07- 11/02 09/11- 11/02	HCV-Ab(-) (08/06)	HCV-RNA(-) (09/10) HCV-Ab(+) (11/02) HCV-RNA(+) (11/02)	-	HCV-RNA(-) (09/10) HCV-RNA(+) (11/03)	陽性(輸血後)	保管検体26本全部について HCV-RNA(-)	
26	2011/3/24	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	男	80	血液腫瘍	細菌感染	11/03	BT 36.5°C	2本目輸血終了後、BT 37.6°C、悪寒あり 1時間15分後、BT 40°C 患者血液培養は陰性。	同一採血番号の血漿(2本)で無菌試験を実施。適合	-	-		
27	2011/3/25	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	男	80	循環器疾患 消化器腫瘍	C型肝炎	10/10-12	HCV-Ab(-) (10/10)	HCV-Ab(+) (11/02) HCV-RNA(+) (11/03)	HCV-RNA(-) (10/10)	HCV-RNA(+) (11/03)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体5本全部について HCV-RNA(-)	
28	2011/3/25	照射濃厚血小板-LR(人血小板濃厚液(放射線照射)) 赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液) 照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	男	80	血液腫瘍	B型肝炎	10/07-11	HBsAg(-) HBcAb(-) (10/06)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (11/02) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (11/03)	HBV-DNA(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (10/06)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (11/03)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体31本についてHBV-DNA(-) 【献血者陽転化情報】 当該献血 2010年7月23日 HBV関連検査 陰性 個別HBV-DNA(-) 次回献血 2011年3月28日 HBc抗体検査陽性(陽転献血) 個別HBV-DNA(-)	献血者検体(2011年3月28日採血、HBV陽性検体)と患者検体とでPreS/S領域を含むP領域の前半部の1550bpの塩基配列を比較したところ、全て一致していた。献血者と患者のHBウイルスはGenotype Bで塩基配列からSubtype[aywと推定した。担当医より「感染症と輸血血液との因果関係はあると考える」とのコメントが得られた。

No.	報告受領日	販売名(一般名)	患者性別	年代	原疾患(簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	備考
29	2011/3/30	赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液) 新鮮凍結血漿-LR(新鮮凍結人血漿)	女	30	産科(出血)	B型肝炎	10/11	HBsAg(-) HBsAb(-) (10/09) HBV-DNA (-)HBsAg (-)HBsAb (-) (10/11)	HBV-DNA(+) (11/02) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) HBeAg(+) HBeAb(+) (11/03)	-	-	-	保管検体8本全部について HBV-DNA(-)	
30	2011/1/25	献血ヴェノグロブリンIH5% 静注2.5g/50mL(ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン)	男	~10	その他の疾患	菌血症	2010/8	両側、足底から連続する足背一下腿一大腿遠位部の紅斑あり(10/08)	1日目 11:50 本剤の投与開始(1回目) 2日目 12:50 本剤の投与開始(2回目、15g)。膝部、足底に丘疹(急性汎発性膿疱性細胞疹)が出現し、39℃台の発熱をみとめた。 3日目 4:25 本剤の投与終了(2回目)。治療開始前の発疹は消失。発熱が持続するため血液培養採取し、抗菌薬の点滴を開始した。 4日目 血液培養からバンテア属菌の検出判明。 5日目 解熱した。 2010/09/02 培養結果の薬剤感受性から抗菌薬変更。 血液培養陰性を確認。退院。					当該ロットの出荷状況は、出庫開始日:2010年6月14日、最終出庫日:2010年8月17日、出荷数:12,251本で在庫なし、有効期限:2011年12月24日である。当該ロットにおいて他に細菌感染が疑われた症例は報告されていない。製造工程の病原体不活性化もふまえ、企業は本剤から感染した可能性は否定できると考える。医師は、本剤との関連性は非常に低い、完全には否定できないとした。 ロット番号:R471VX